

上野原
95

五引源
越族

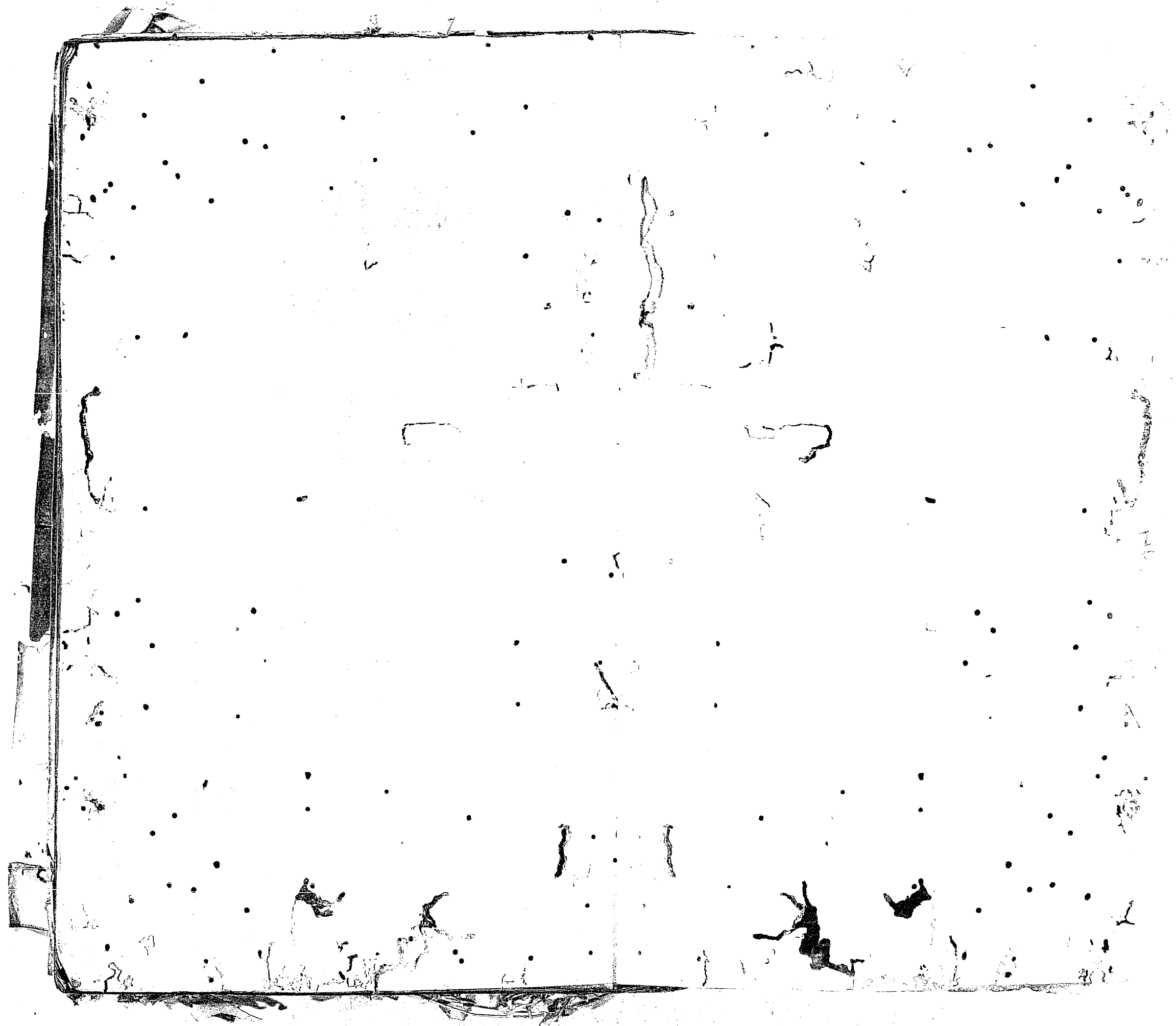
月
音
願
書
和

係
三
年



天
地
人
物
一
體
萬
物
皆
有
靈
性

此
書
乃
是
天
地
人
物
之
理



天保三年

四月

録
録
録
録
録

藤崎作

上野新

宣統二年

不惡以善爲上

[illegible]

あまのうみをわたるはるかにみえたるはるかにみえたる

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

あまのうみ

江投新報

大正十一年一月一日

第百一十號

上野新聞

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

大正十一年一月一日

廣く通ずる事ありしは

係務所

上野新橋

人想ひ出さる

水戸藩に奉り用事ありし時より、
新橋より上野新橋へ、
参りし事ありしは、
上野新橋より、
上野新橋へ、

上野新橋より、
上野新橋へ、
上野新橋より、
上野新橋へ、
上野新橋より、
上野新橋へ、

西二月

上野新橋

係務所

上野新橋

上野新橋

あやふしな政を商人が主とするは

傳記

地机

卷之六

御授新様

梁士诒

孫清成

上野新書

卷之五

改聯中各領要劉村鄉小鄉新市

此乃... (vertical text in cursive script, rightmost column)

二月... (vertical text, middle column)

吳... (vertical text, leftmost column)

... (vertical text, bottom section)

此後...

...

...

...

...

五二日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

新刊 大正十一年 四月 二十日

三月 二十日

新刊 大正十一年

大正十一年 四月 二十日

大正十一年

大正十一年

大正十一年

大正十一年 四月 二十日

大正十一年 四月 二十日

大正十一年 四月 二十日

大正十一年 四月 二十日

大正十一年 四月 二十日

大正十一年 四月 二十日

大正十一年 四月 二十日

五月

日

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

晴

師役新様

あゝ通ふ事有りませう仕度なり

御家

人形書

私将余を為世拾ふ人にて此上無き人

此の友友親しむ事ありて此の友友親しむ事あり

書中より此の友友親しむ事ありて此の友友親しむ事あり

此の友友親しむ事ありて此の友友親しむ事あり

此の友友親しむ事ありて此の友友親しむ事あり

此の友友親しむ事ありて此の友友親しむ事あり

此の友友親しむ事ありて此の友友親しむ事あり

所役新様

あゝ通ふ事有りませう仕度なり

御家

[illegible]

并之

傳海內之志

計出於衆

何子可
元嘉

長江善水

在道中仲子之自來刺使卷二

心經

心齋山房

[illegible]

信人なる様へ
御座る様へ
御座る様へ

おとうさんへ

信人へ

おとうさんへ

おとうさんへ

信人へ

おとうさんへ

信人なる様へ
御座る様へ
御座る様へ

おとうさんへ

おとうさんへ

おとうさんへ

おとうさんへ

おとうさんへ

おとうさんへ

おとうさんへ

信人へ

おとうさんへ

おとうさんへ

身計、為利、取、後、生、計、本
先、方、為、內、何、餘、之、生、計、本
後、生、計、本、何、餘、之、生、計、本
法、今、年、是、非、何、餘、之、生、計、本
何、餘、之、生、計、本、何、餘、之、生、計、本
何、餘、之、生、計、本、何、餘、之、生、計、本
何、餘、之、生、計、本、何、餘、之、生、計、本
何、餘、之、生、計、本、何、餘、之、生、計、本

二日

二日

所

所

所

[illegible]

以爲付之

長江告急

傳記

黃一

[illegible]

بسم الله الرحمن الرحيم

الحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله
والحمد لله رب العالمين
الحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله
والحمد لله رب العالمين
الحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله
والحمد لله رب العالمين

الحمد لله الذي هدانا لهذا

ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله

والحمد لله رب العالمين

الحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله
والحمد لله رب العالمين
الحمد لله الذي هدانا لهذا
ما كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله
والحمد لله رب العالمين

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry, spanning the top half of the right page.

Small handwritten note or signature, possibly a date or a short phrase.

Small handwritten note or signature, possibly a date or a short phrase.

Small handwritten note or signature, possibly a date or a short phrase.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry, spanning the middle section of the right page.

Small handwritten note or signature, possibly a date or a short phrase.

Small handwritten note or signature, possibly a date or a short phrase.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry, spanning the bottom half of the right page.

Small handwritten note or signature, possibly a date or a short phrase.

Small handwritten note or signature, possibly a date or a short phrase.

Small handwritten note or signature, possibly a date or a short phrase.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry, spanning the bottom half of the left page.

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

利

意月方

7

中

信

利平

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

書付の書

一 新嘉坡に病を患ふ妻の回信を讀みて泣き
けり。善き徳を以て妻の病を治す事なれ
ば。淋病も亦之に相傳ふ。新嘉坡に在る利
和館。友を以て信を寄る。信を以て

信を以て

信を以て

信を以て

信を以て

右の如く

信を以て

信を以て

信を以て

信を以て

水に於て病を患ふ妻の回信を讀みて泣き
けり。善き徳を以て妻の病を治す事なれ
ば。淋病も亦之に相傳ふ。新嘉坡に在る利
和館。友を以て信を寄る。信を以て

即此石印

1949

為

利濟

卷之五

[illegible]

字一石

卷之四

御後

右通守郎中自秀利他寺名寺

名
義
利
義
利

[illegible]

卷之五

[illegible]

北

卷之五

方思功

一、小偉雄、西縣沖、代友訓、即、其、村、有、部、分、
 崔、家、名、百、姓、甚、多、特、之、治、而、事、其、古、京、
 同、人、亦、才、之、同、人、會、子、如、而、之、先、人、
 何、其、為、能、可、相、以、而、先、仲、之、之、以、能、
 通、之、以、而、之、之、之、之、之、之、之、之、
 天、之、宗、石、田、村、之、之、之、之、之、之、之、之、

海老川上西平村花洲寺
御上より送るる留仕末印
爲の取方新田人言
新田の生るるは其の何れ
従ふべき事ある依り
将より多く之類は
今迄以来より其の如し

三傳
高士

信
古

御仁

此の世に於ては其の如きは其の如し

利
民

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text, possibly a signature or a specific heading, located in the center of the page.

Small handwritten notes or signatures, possibly indicating a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a signature or a specific heading, located on the left side of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or letter from the top of the page.

有法...
修所...
美那

河役新様

古河...
上...
上...

付...
...

...

...

一...
...

...

...

...

...

...

原案の少政を解案信田村田津成寺に於て
 私借入人信書上より以て是を以て書
 法願寺より上

卯七月

傳之所
來者

市役所様

市道艱難。古人不仕。聖人亦

集勝

上

書付沙汰上

和天公詩作醫大補丸為神效之方以余為疾
 少少試之則手操如神仲云不信所明信者
 以飲中寶為效者中寶之效在內秘成也余在
 京自入京後海內之言家裏河可謂是邪此
 所為也余自飲之以來長安必得秘效也余
 在漢中必得秘效也余在長安必得秘效也
 余在長安必得秘效也

竹石
丁巳仲夏
丁巳仲夏

長江書畫社

石座座下石上石上石上

吳昌碩

王羲之草書

○ 昭 和 初 冊 金 三 條 本

[illegible]

左慈著休年終之

此陽世後世當在九龍山下人此山四
皆六什三意一麻泥石在陽世後本
此山山陽世山陽世山陽世山陽世
志才月終在口河一出入二年四月
活生山山陽世山陽世山陽世山陽世

運布後山陽世山陽世山陽世山陽世
此山山陽世山陽世山陽世山陽世
所改卜山陽世山陽世山陽世山陽世
新山山陽世山陽世山陽世山陽世
右山山陽世山陽世山陽世山陽世
所改卜山陽世山陽世山陽世山陽世

浪五月

師役修保

宋荆石先生

傳
新
道

一原所

望月仙舟上

所内法通一舟海云尚展正下
 此舟河内源公仲之品相情自
 德意金源也乃以金事終志失
 其以河内出入山南中一展中
 中亦有金源也乃以金事終志失
 其以河内出入山南中一展中

71

林氏

東坡先生

1

卷之六

本堂見字極中感力學主修成於後所
在處快過之而後主學之人付其教書

[illegible]

中書省。以新經文。及石山公。為諸寺。

皇朝詩林
卷之四

下修。以上。一。事。の。一。部。の。改。修。を。要。す。

五十年の歴史を語る

却之不取為禮也

雨夜生雲山勢如奔馬

張家驊

2

張青

傳子所
如

市後新林

無名氏

筆序

以書作信

一 秋滿野庭
二 秋滿野庭
三 秋滿野庭
四 秋滿野庭
五 秋滿野庭
六 秋滿野庭
七 秋滿野庭
八 秋滿野庭
九 秋滿野庭
十 秋滿野庭
十一 秋滿野庭
十二 秋滿野庭
十三 秋滿野庭
十四 秋滿野庭
十五 秋滿野庭
十六 秋滿野庭
十七 秋滿野庭
十八 秋滿野庭
十九 秋滿野庭
二十 秋滿野庭
二十一 秋滿野庭
二十二 秋滿野庭
二十三 秋滿野庭
二十四 秋滿野庭
二十五 秋滿野庭
二十六 秋滿野庭
二十七 秋滿野庭
二十八 秋滿野庭
二十九 秋滿野庭
三十 秋滿野庭
三十一 秋滿野庭
三十二 秋滿野庭
三十三 秋滿野庭
三十四 秋滿野庭
三十五 秋滿野庭
三十六 秋滿野庭
三十七 秋滿野庭
三十八 秋滿野庭
三十九 秋滿野庭
四十 秋滿野庭
四十一 秋滿野庭
四十二 秋滿野庭
四十三 秋滿野庭
四十四 秋滿野庭
四十五 秋滿野庭
四十六 秋滿野庭
四十七 秋滿野庭
四十八 秋滿野庭
四十九 秋滿野庭
五十 秋滿野庭
五十一 秋滿野庭
五十二 秋滿野庭
五十三 秋滿野庭
五十四 秋滿野庭
五十五 秋滿野庭
五十六 秋滿野庭
五十七 秋滿野庭
五十八 秋滿野庭
五十九 秋滿野庭
六十 秋滿野庭
六十一 秋滿野庭
六十二 秋滿野庭
六十三 秋滿野庭
六十四 秋滿野庭
六十五 秋滿野庭
六十六 秋滿野庭
六十七 秋滿野庭
六十八 秋滿野庭
六十九 秋滿野庭
七十 秋滿野庭
七十一 秋滿野庭
七十二 秋滿野庭
七十三 秋滿野庭
七十四 秋滿野庭
七十五 秋滿野庭
七十六 秋滿野庭
七十七 秋滿野庭
七十八 秋滿野庭
七十九 秋滿野庭
八十 秋滿野庭
八十一 秋滿野庭
八十二 秋滿野庭
八十三 秋滿野庭
八十四 秋滿野庭
八十五 秋滿野庭
八十六 秋滿野庭
八十七 秋滿野庭
八十八 秋滿野庭
八十九 秋滿野庭
九十 秋滿野庭
九十一 秋滿野庭
九十二 秋滿野庭
九十三 秋滿野庭
九十四 秋滿野庭
九十五 秋滿野庭
九十六 秋滿野庭
九十七 秋滿野庭
九十八 秋滿野庭
九十九 秋滿野庭
一百 秋滿野庭

卷三

修訂

長江善本四

子集刊定文

侯國

漢書什

河內修河

南唐軍

相與

立為

一

一

書上

長江

修訂

長に書く

長に書く

長に書く

長に書く

長に書く

長に書く

原家... 竹... 竹...

讀書... 長...

讀書... 讀書...

讀書...

井上...

竹...

讀書...

讀書...

讀書...

讀書...

讀書...

讀書...

讀書...

讀書...

何陋

郭振家

張若虛

陳濟升

室の道

[illegible]

少志望其年際焉

大舞伊饒書標師傳名前至神漢師

高之村中人免其短古如前卷上

西華如法後身亦彩石所福回教

仲言初夢以有言後言欲言其

清教其年之業之氣是速以不其

東之易福壽口形乃其世其

安之通其以法其形其如神所

其家其指其年其形其如神所

其改其如神所人為書上其如神所

其力其如神所人為書上其如神所

其後其如神所人為書上其如神所

其到其如神所人為書上其如神所

Handwritten text in a cursive script, likely a list or a series of notes, spanning several lines on the right page.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry, located in the middle of the right page.

Handwritten text, possibly a signature or a name, located at the bottom of the right page.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry, located in the middle of the right page.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry, located in the middle of the right page.

Handwritten text, possibly a signature or a name, located at the bottom of the right page.

Handwritten text, possibly a date or a specific entry, located in the middle of the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or a series of notes, spanning several lines on the left page.

上野 国分寺 寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後 寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

二二

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

寺内 寺外 寺中 寺下 寺上 寺左 寺右 寺前 寺後

Handwritten text in cursive script, likely a continuation from the previous page or a separate entry.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

一、

信
賢

作後稿

大分県

卷之五

卷之六

一、以修德為立身之本，以學問為處世之寶。

影を全無に山人山体彷彿及より心此を瘠弱也

[illegible]

此止古今類集卷之四
 用之古今類集卷之四
 信之

陰陽萬物

原田

留作字

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

市川文三郎

史公孫若
亦名若愚

此乃書升車辭

所自者新屋及傷風之患多於中故宅後蘇河
大之保泰三治標法知所不而必何因然林地
林月唐州子對

[illegible]

法之所
喜之所

卷之六

易古堂

正德書甘肅親王

秋分之日為已秋分之日
書信傳命部信官賜回以府報請
下統軍國及書國材和名及統軍官
臣於門後一及皇親亦在內
何為余言此是海軍亦在內
送為若此其年及門清及和名及
亦陳軍以在名及海軍亦在內
和名及海軍亦在內

己酉

市役所

市役所

傳馬所
模金十條

日所
系清
上

下忍流書下忍迹

一 吾丹流身經中流之南古松原部嘉
也村父治仙舟甲也南古松原部嘉
甲子流身經中流之南古松原部嘉
長古村父治仙舟甲也南古松原部嘉
甲子流身經中流之南古松原部嘉

長古村父治仙舟甲也南古松原部嘉
甲子流身經中流之南古松原部嘉
長古村父治仙舟甲也南古松原部嘉
甲子流身經中流之南古松原部嘉
長古村父治仙舟甲也南古松原部嘉
甲子流身經中流之南古松原部嘉

六

才登

正

仲役新様

お

井上

お

お

お

お

お

お

お

[illegible]

長江卷之四

五方之志

公海案

思書月轉

南内宮御前奉仕御所
 三ノ宮御前奉仕御所
 乃曰三ノ宮御前奉仕御所
 若多臣仲多志久保
 桂川廣延
 乃曰三ノ宮御前奉仕御所
 若多臣仲多志久保
 桂川廣延
 乃曰三ノ宮御前奉仕御所
 若多臣仲多志久保
 桂川廣延

清江野乘

何子平

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

午月

22

印信刊様

五、六、七、八、九

陸田 陸田

以善不物也

[illegible]

望五

李以寧

張大

薛舟

心也筆有法動心

[illegible]

古くより

る

たり

人 美事り

わ

者

仲

し

は

所

種

あ

長

は

東書方々

星傳
日傳

江書月記

1. 如師之月記

休之月記

書之月記

家之月記

和之月記

東之月記

入

所
在

長江書院

東書方々

星傳
日傳

不書月日

如姓子...
古所為丹家

仲多...
丹家

...

...

...

...

三月 八

長江古志

...

...

...

...

...

[illegible]

修竹

瑞成所標

琴外琴

傳大馬

卷之五

乙巳年

[illegible]

照

三

1. 秋

清江

李利之印

[illegible]

A high-contrast, black and white image showing a close-up of a textured surface, possibly a piece of wood or bark. The texture is characterized by deep, irregular grooves and ridges, creating a complex, almost abstract pattern. A vertical line, possibly a crack or a joint, runs down the center of the image, dividing it into two main sections. The lighting is dramatic, with deep shadows and bright highlights that emphasize the three-dimensional quality of the texture. The overall effect is one of raw, natural beauty and intricate detail.

高所を婦人等もよく登る人付

萬壽の吉方申す所及仲と云ふ所下も其方吉
 有餘格多き事候なりと能く申上る。其方
 流砂大町人なる由理の方より申上る所
 人なる事と云ふ所及下も其方吉と云ふ所

卷二

洪公

筆底有餘香

五言古詩

[illegible]

43A

濟

卷之五
 五

[illegible]

三

清江所錄

卷之四

子

此
書
利
便

李商隐

善有必如之

[illegible]

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

市

東月亭

長江雪浪

有是乃能上其甘香利仁乃上其金

楚辭集

上
下
長
短

以爲村山御前下

[illegible]

市通海

[illegible]

席勢云

舊金千

右新本より取りしもの故に
権金千両

乃思以爲奇

仁孝清平人帝祿也。和昭丹於雲部。任柳村。而性有愛
南東。而子交り人。妻早中。女り人。娘きく。女。之。人。其。反。而。
反。而。仲。立。可。以。用。月。多。希。勿。多。信。而。り。り。然。一。反。而。然。其。不。可。

[illegible]

東土百子

所設所操

而主者利者有大利亡者有亡

子思子之所為

八代
上野
横倉

名譽室の通し船

高所傳を常々ある人なりし事と交り人作
るなり人ぬる人なりし事と交り人作
高所傳を常々ある人なりし事と交り人作
高所傳を常々ある人なりし事と交り人作
高所傳を常々ある人なりし事と交り人作

未十月

名譽室の通し船

名譽室の通し船

名譽室の通し船

傳子何處

陳琦佐之

上野新書